

第4章 施策の展開

前章で設定した8つの施策の分類に基づき、施策毎に現状と課題を整理し、今後取り組むべき方向性を示します。併せて、現時点で考えられる主な取り組み例を示します。

1. 保存管理

【現状と課題】

古墳は、権力者の権威を象徴する墓として1600年もの昔に築造され、人々が墳丘の上の樹木を薪木にしたり、また、周濠にたまっている水を灌漑用水として活用したりと、時代に応じてその役割を変化させながら、地域に住む人々と共存し、守られてきました。

現在、古墳は、大きく「陵墓」と「史跡」に分かれ、さらに、一部、民有地のものもあり、異なる方法で管理されています。過去の人々が守ってきたこの資産を次世代へと引き継いでいくため、古墳群を一体的に捉えて保存管理していくことが必要です。

また、保存管理を継続的に実施していくためには、地域住民とともに古墳を守っていくことはもちろん、多くの人に古墳の価値について正しく理解してもらうことが必要です。

【方向性】

- 古墳群を一体的に捉えた保存管理を行います。
- 地域全体で古墳とその周辺環境を良好に保ち、未来へつないでいきます。
- 古墳の価値を学ぶことを通じ、将来にわたり古墳を守る気持ちを育てます。

【主な取り組み例】

○古墳の保全・管理



- ・「陵墓（宮内庁管理）」及び「史跡（市管理）」における包括的な保存管理計画の作成と同計画に基づく適切な保全
- ・古墳の濠の水質の保持・改善（公共下水道の整備、濠への導水など）

- ・史跡等における周辺環境と調和した整備
- ・古墳の保全活動費用の確保（基金の設置、売り上げの一部を充当する仕組みの創設など）



○地域と一体となった古墳を守る活動

- ・地域ボランティア等による清掃・美化活動の拡充



○古墳の価値を学ぶ

- ・古墳群の歴史的価値を学ぶ機会の設定（古墳学習、講演会、シンポジウムなど）



2. 景観形成

【現状と課題】

古墳群のある地域は、かつて農地が大部分を占めていましたが、高度成長期の人口の急激な増加に伴い、市街化が進められてきました。

それに対応して、多くの古墳の周囲を第一種低層住居専用地域等に指定し、建築物の高さを抑えるなど、古墳と調和した都市環境の形成に取り組んできました。

しかしながら、古墳との調和を一層進めるためには、外壁等の色や材質、建築設備の見え方等の工夫が必要です。

また、駅周辺や幹線道路沿いでは、商業利用が行われているため、中高層建築物の立地が進んでおり、一部では、大きな広告看板が掲出されているところもあります。

これらの現状を踏まえ、地域住民とともに古墳と調和するまちに向け、景観形成を図っていくことが望まれます。

【方向性】

○ 古墳群のある地域としてふさわしい景観の形成を図ります。

(周辺建築物等の高さ、形態・意匠、屋外広告物の掲出等のルール設定など)

【主な取り組み例】

○古墳周辺の景観への配慮（高さ・屋外広告物等）

- ・古墳の眺望景観に配慮した周辺建築物等の高さの制限
- ・大規模屋外広告物に対する許可基準等の見直し



○古墳と調和したまちなみへの誘導

- ・古墳周辺の建築物等の形態・意匠が、古墳や寺社等の歴史的景観、自然（公園緑地、農地やため池等）と調和するまちなみの形成



3. みどりの充実

【現状と課題】

古墳群のある地域では、古墳はみどりや水を有する貴重なオアシス空間となっていますが、市街化が進んだことにより、まちの中で古墳のみどりが分断している状況です。

そこで、古墳の周辺地域にみどりを充実させ、古墳の「みどり」と周辺地域の「みどり」に連続性をもたせるなど、古墳のみどりを活かしたうるおいのあるまちを形成することが求められます。

【方向性】

○ 古墳と連なるみどりにより、うるおいのあるまちの形成を進めます。

【主な取り組み例】

○道路・公園など公共用地の緑化

- ・地域住民や来訪者が通る道路、憩いの場である公園におけるみどりの充実
- ・古墳周辺でのみどり空間の創出（古墳との連続性の演出）



○民有地の緑化

- ・公共用地の緑化と合わせた民有地の緑化



○農地・ため池の景観保全

- ・市街地内の貴重なみどりや水辺（農地やため池など）の保全



4. 受入体制の整備

【現状と課題】

古墳群の周辺は地域住民の生活の場であり、生活環境の維持と来訪者に古墳の魅力を感じてもらふこととの両立を図るためには、公共交通機関の利用を促すなど、来訪者を適切に誘導することが必要です。

また、近年、周辺の歴史文化資産を含めたウォーキングルートにおいて案内板等の整備が行われてきましたが、サインが統一されておらず、来訪者をスムーズに導く環境としては不十分です。

さらに、来訪者に古墳やその周辺地域の魅力を十分に堪能してもらうためには、個々人のニーズに応じて、快適に巡り、過ごしてもらえよう環境づくりが重要です。

【方向性】

- 来訪者がスムーズに古墳を周遊できるよう、案内や交通手段の充実を図ります。
- 案内施設や便益施設の充実を図り、来訪者をおもてなしします。

【主な取り組み例】

○アクセスルートの整備

- ・周遊ルート・周遊方法の設定
- ・来訪者にわかりやすい誘導・案内（周辺案内板の見直し、適切な標識の配置、外国語対応など）
- ・電車やバスでの車内案内等の充実



○駅舎・駅周辺の整備

- ・古墳群のあるまちとしてふさわしい、地域の状況に応じた駅舎・駅周辺の整備



○多様な周遊手段の整備

- ・点在する古墳を効率的に巡る交通手段の整備（循環バスの活用など）
- ・市域を超えたレンタサイクルの連携



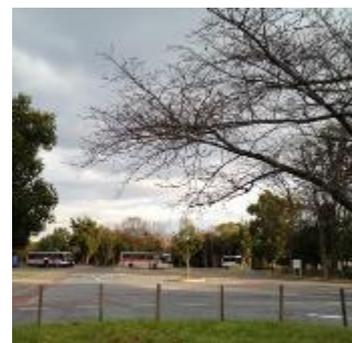
○観光案内の充実

- ・多様なニーズに対応したきめ細やかな案内サービスの提供



○便益施設の整備・充実

- ・駐車場、トイレ、休憩所等便益施設の充実（整備・改善、美化、バリアフリー化）



5. 案内の充実

【現状と課題】

巨大古墳は、至近距離から全体像を把握することが難しく、一見しただけでは、価値や魅力がわかりにくい資産です。また、陵墓については、一般開放されていないため、中に立ち入ることができません。

このため、現地で、古墳の価値や魅力を感じてもらえるような工夫が必要です。なお、古墳は「お墓」であることから、来訪者に節度ある見学を求めていく必要もあります。

現在でも、ウォーキングマップや、ボランティアガイドによる現地案内等により、古墳群を案内する取り組みは行われており、一部では、携帯端末を使ったナビゲーションシステムも始まっていますが、古墳群を守っていく意識を醸成するためにも、更なる充実が必要です。

また、現在、外国語による案内は十分とはいえない状況ですが、世界文化遺産登録に伴って増加が予想される海外からの来訪者に対応する必要があります。

【方向性】

- 案内施設や案内ガイドを充実し、来訪者が古墳群の歴史的な価値や魅力を感じていただけることをめざします。
- 誰もが気軽に古墳に対する理解を深めることができるよう、情報発信ツールの多様化や多言語化を進めます。

【主な取り組み例】

○ガイダンス機能の充実（展示・解説等）

- ・古墳群のガイダンス施設の整備及び関連歴史文化施設の充実（堺市博物館、時とみどりの交流館（峰塚公園管理棟）、まほらしろやま（史跡城山古墳ガイダンス棟）など）



○ボランティアガイドの育成・充実

- ・古墳の歴史的背景や価値・魅力への理解をより一層深める助けとなるボランティアガイドの育成、案内内容の充実



○多様な情報発信ツールによる案内の充実

- ・様々な情報（周辺の歴史文化資産、トイレ等の便益施設、周遊ルートなど）を掲載したガイドマップの作成、配布
- ・魅力的な情報を豊富に提供できる携帯端末を使った案内システムの充実
- ・情報発信ツールの多言語化



6. 情報発信

【現状と課題】

古墳群のある地域では、古墳にまつわる言い伝えや歴史が伝承され、多様な歴史文化資産とともに、地域の宝として存在してきましたが、これまで地域外の人が十分に認知するまでの情報発信はされてきませんでした。

古墳群についても、平成22年11月にユネスコ世界遺産暫定一覧表に掲載されたものの、認知度は高いとはいえないのが現状です。

今後、古墳群の価値や魅力を次世代に引き継いでいくためにも、地域住民をはじめ、府域全体、国内外に情報発信を行い、理解を深めていくことが重要です。

《参考: アンケート結果》

おおさかQネットアンケート結果(H23.9: 1896人)		割合
古墳というものを知っているか		99.4 <small>聞いたことがある含む</small>
大阪に百舌鳥古墳群、古市古墳群、仁徳天皇陵古墳、応神天皇陵古墳があることを知っているか		28.7 <small>全て知っている</small>
大阪が百舌鳥・古市古墳群の世界遺産に登録するための活動を行っていることを知っているか (民間ネット調査 H25.3)		52.4 <small>聞いたことがある含む</small>
現在登録されている日本の世界遺産と比較して、百舌鳥・古市古墳群は世界遺産になるのにふさわしいと思うか		25.6
百舌鳥・古市古墳群が世界遺産になったら行きたいと思うか ()内は20代以下		49.6 (61.1)
百舌鳥・古市古墳群が世界遺産となったら大阪はどう変化と思うか	世界的な都市格が高まる	27.9
	内外からの観光客が増え経済も活性化する	62.2

【方向性】

- 古墳群や地域にある他の歴史文化資産の価値や魅力をより多くの人に理解してもらえるよう、国内外へ情報発信していきます。
- 「百舌鳥・古市古墳群ブランド」のイメージを構築するなど、多様な方法で百舌鳥・古市古墳群の知名度を国内外で高めていきます。

【主な取り組み例】

○古墳群と地域魅力の情報発信

- ・さまざまなツールを活用した情報発信（ホームページ、情報誌など）
- ・イベントや催し物等における積極的な情報発信（鉄道会社に向けたタイアップの呼びかけ、大阪府内の主要駅などの交通拠点におけるPR活動など）



○ブランドイメージの構築

- ・「百舌鳥・古市古墳群ブランド」のイメージ構築及びそれに沿った、地域を盛り上げるための取り組み



7. 誘客の展開

【現状と課題】

古墳群のある地域は歴史的に古く、古墳だけでなく、寺社仏閣、地域にまつわる秘話・伝説・催しなど、さまざまな歴史文化資源に恵まれています。

しかし、これまでその魅力が十分に地域外の人に伝わってこなかったといえます。

そこで、世界遺産登録に向けた取り組みを機に、古墳群だけでなく、地域資源を見つめ直し、それらを活かした魅力づくりやにぎわいづくりを図ることが求められます。

そのためには、地域に根差した取り組みや特産品など、古墳に興味のない人々でも楽しむことのできる魅力をPRし、一度だけでなく、何度も訪れてもらうことのできるような取り組みが必要です。

【方向性】

- 古墳と地域の歴史文化資産を活かした魅力とにぎわいの創出など、人を惹きつける取り組みを行います。
- 古墳群を活かした土産品や地域の特産品などにより、地域の魅力向上と情報発信につなげます。

【主な取り組み例】

○地域協働イベントの開催

- ・来訪者が楽しみながら古墳や歴史文化資産等に理解を深めることを目的としたイベントの開催
- ・地域と一体となったイベントの開催



○周遊コースの魅力向上

- ・古墳や周辺の歴史文化資産、地元につながる伝説等を題材として組み立てた演出やこれらと連携するウォーキングコースやサイクリングコースの設置
- ・古墳を見ながらくつろぐことのできる空間の創出

○何度も訪れたいくなる仕掛けづくり

- ・ターゲット（年齢、性別、人数等）やテーマ（「食」「体験」など）に応じた多様な観光プランの企画・実施
- ・記念日の設定及びそれに合わせた恒例イベントの開催
- ・近隣大学との連携及び学生主体で運営する店舗等の誘致
- ・古墳をテーマとしたコンクールの開催（写真、絵画など）



○地域特産品や観光商品の開発

- ・「百舌鳥・古市古墳群ブランド」としての特産品の育成
- ・都心部の集客拠点における地域物産展の開催等
- ・古墳関連グッズ（土産品等）・フードメニュー（弁当等）の開発・充実

8. 広域連携の強化

【現状と課題】

古墳群の周辺には、中世自治都市として栄えた堺環濠都市地域や、江戸時代の街並みを残す富田林寺内町、これらをつなぐ竹内街道や高野街道等の歴史街道など、多数の観光資源があります。これらの観光資源は、それぞれ歴史的意義や価値があるものとして認知されていますが、百舌鳥・古市古墳群との連携は十分とは言えません。

また、世界文化遺産に登録されている「古都奈良の文化財」や、吉野・高野山を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」は、百舌鳥・古市古墳群からのアクセスも良く、周遊することが可能です。

多くの人に百舌鳥・古市古墳群を訪れてもらうためには、これら近隣の観光資源や世界遺産等と連携を図っていき、古墳群を含む周辺地域全体の魅力を高めることが望まれます。

【方向性】

- 古墳群周辺の観光資源と連携し、地域の魅力を効果的に拡げていきます。
- 近隣の世界文化遺産との連携を強化し、古墳周辺の観光資源とともに古墳群の魅力を高めていきます。

【主な取り組み例】

○周辺の観光資源との連携（環濠都市地域、寺内町、竹内街道等）

- ・古墳群周辺の歴史文化遺産（堺環濠都市地域、富田林寺内町、叡福寺、観心寺等）や歴史街道（竹内街道、高野街道等）との連携（周遊ルートの設定（既存ツアーの活用を含む）など）
- ・博物館等文化施設との連携（近つ飛鳥博物館など）
- ・周遊ルートを一層魅力的にするようなツアーの企画



○関西の世界遺産との連携

- ・関西の世界遺産（吉野、高野山等）との連携（鉄道で直接結ぶ企画列車の運行、記念切符の発行、観光ツアー、スタンプラリー等）

